

第35回 維持管理・環境管理専門委員会
第1回 H31年度イベント実行委員会
2019年3月4日

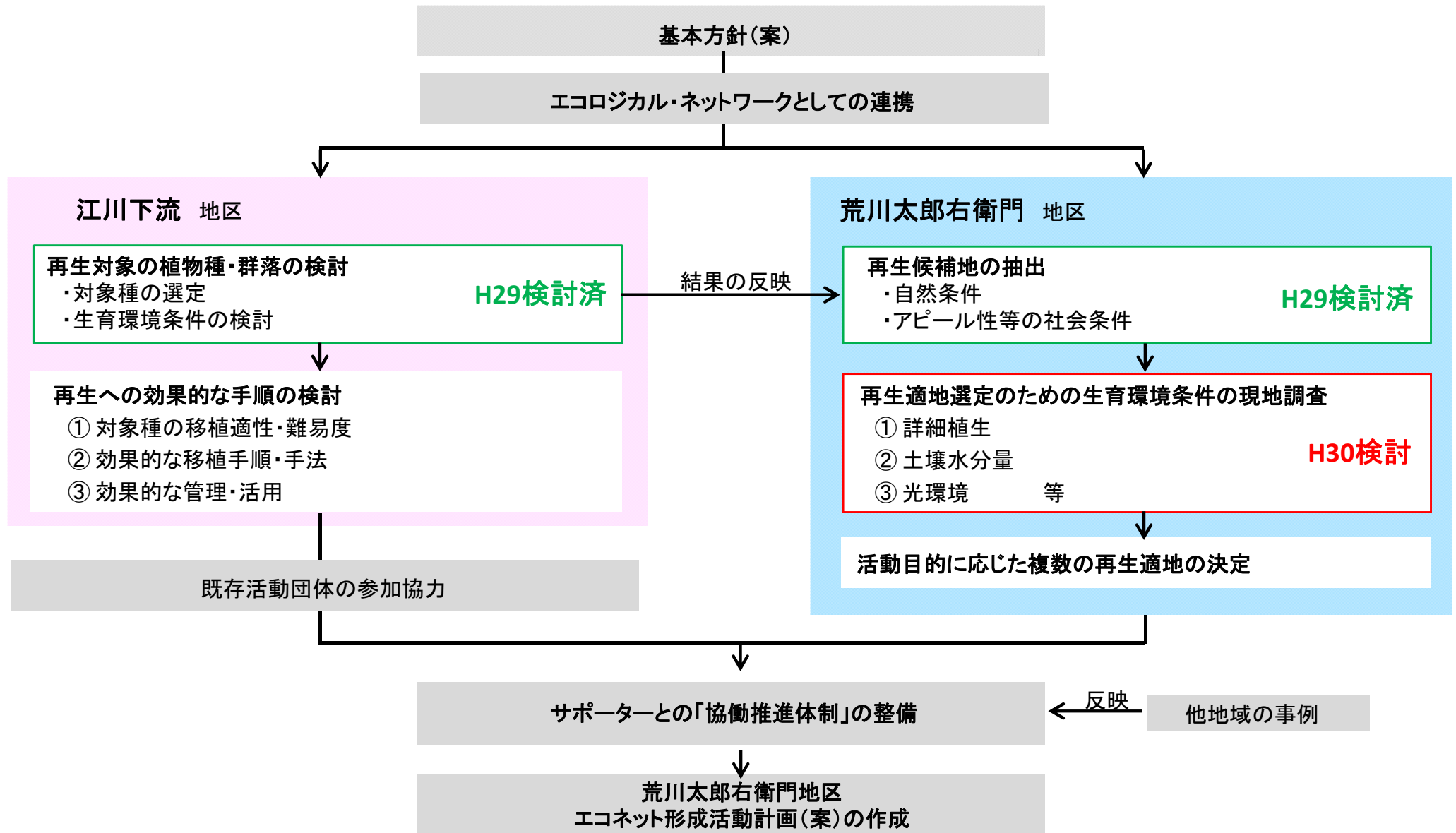
エコロジカル・ネットワークについて

【ご注意】

本資料は、生態系保護の観点から生物の位置に関わる情報などは非表示としています。
ご了承下さい。

荒川太郎右衛門地区エコネット形成活動計画 検討の流れ（案）

- 目的 ① 自然再生事業地の効果的なアピールを図るために「サクラソウ群落」の再生を目標とした活動を推進する
② 「江川下流地区」との連携によるエコロジカル・ネットワーク形成に向けた活動を推進する



再生対象の植物種・群落の検討

- 再生対象の植物種の選定にあたっては、「サクラソウ群落」の構成種を基本としながら、荒川太郎右衛門地区のかつての原野植生を念頭に、希少性やアピール性にも留意しつつ、以下の計15種の候補種の選定を行いました。生育環境としては、水域～湿地を中心に、一部は草地環境の種も含んでいます。【検討済み】
- 希少種も多く含まれることから、今後、再生対象種ごとに、効果的な育成や移植の手順について検討を進めていきます。

No.	科名	種名	生育環境			花の色	環境省 レッド	埼玉県 レッド
			水域	湿地	草地			
1	ナデシコ	カワラナデシコ			●	ピンク		VU
2	スイレン	コウホネ	●			黄		NT
3	オトギリソウ	トモエソウ		●		黄		VU
4	トウダイグサ	ノウルシ		●		黄	NT	VU
5	サクラソウ	ノジトラノオ		●		白	VU	EN
6	サクラソウ	ヌマトラノオ		●		白		NT
7	サクラソウ	サクラソウ		●		ピンク	NT	CR
8	ミツガシワ	アサザ	●			黄	NT	VU
9	キョウチクトウ	チョウジソウ		●		淡い紫	NT	EN
10	キキョウ	バアソブ		●		白と紫	VU	EN
11	キク	ホソバオグルマ		●		黄	VU	EN
12	ユリ	コオニユリ		●		赤		NT
13	ヒガンバナ	キツネノカミソリ		●		赤		NT
14	アヤメ	ノハナショウブ		●		紫・紺		VU
15	ラン	ミズチドリ		●		白		CR

・環境省レッド・・・第4次環境省レッドリスト植物ⅠおよびⅡ（環境省、2019）への掲載状況
 ・埼玉県レッド・・・再改訂・埼玉県レッドリスト2011植物編（埼玉県、2011）の掲載状況
 <レッドデータブックのカテゴリー区分>

CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧

再生対象の植物種の概要



[1] カワラナデシコ

【県：絶滅危惧Ⅱ類】

砂礫河原や貧栄養な草原に生育する多年草



[2] コウホネ

【県：準絶滅危惧】

水路、池沼などに生える多年草



[3] トモエソウ

【県：絶滅危惧Ⅱ類】

湿地、原野に生える多年草



[4] ノウルシ

【国：準絶滅危惧、県：絶滅危惧Ⅱ類】

湿地や原野に生える春型の多年草



[5] ノジトラノオ

【国：絶滅危惧Ⅱ類、県：絶滅危惧ⅠB類】

土手、やや湿り気のある草地などに生育する多年草



[6] ヌマトラノオ

【県：準絶滅危惧】

ヨシ原、河辺、畔など湿地に生育する多年草



[7] サクラソウ

【国：準絶滅危惧、県：絶滅危惧ⅠA類】

湿地や原野に生える春型の多年草



[8] アサザ

【国：準絶滅危惧、県：絶滅危惧Ⅱ類】

湖沼やため池、緩い流れに生育する浮葉植物



[9] チョウジソウ

【国：準絶滅危惧、県：絶滅危惧ⅠB類】

河畔林、オギ原などに生育する多年草



[10] バアソブ

【国：絶滅危惧Ⅱ類、県：絶滅危惧ⅠB類】

湿地や原野に生えるつる性の多年草



[11] ホソバオグルマ

【国：絶滅危惧Ⅱ類、県：絶滅危惧ⅠB類】

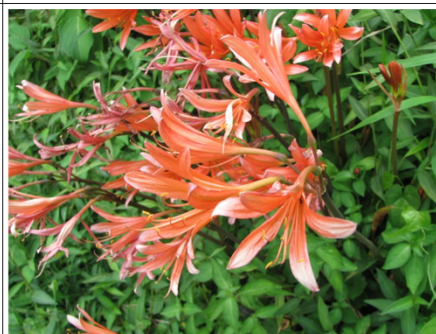
自然性の高い湿地に生育する多年草



[12] コオニユリ

【県：準絶滅危惧】

湿った草原に生える多年草



[13] キツネノカミソリ

【県：準絶滅危惧】

土手や樹林内などに生育する多年草



[14] ノハナショウブ

【県：絶滅危惧Ⅱ類】

湿った草原や湿原に生える多年草

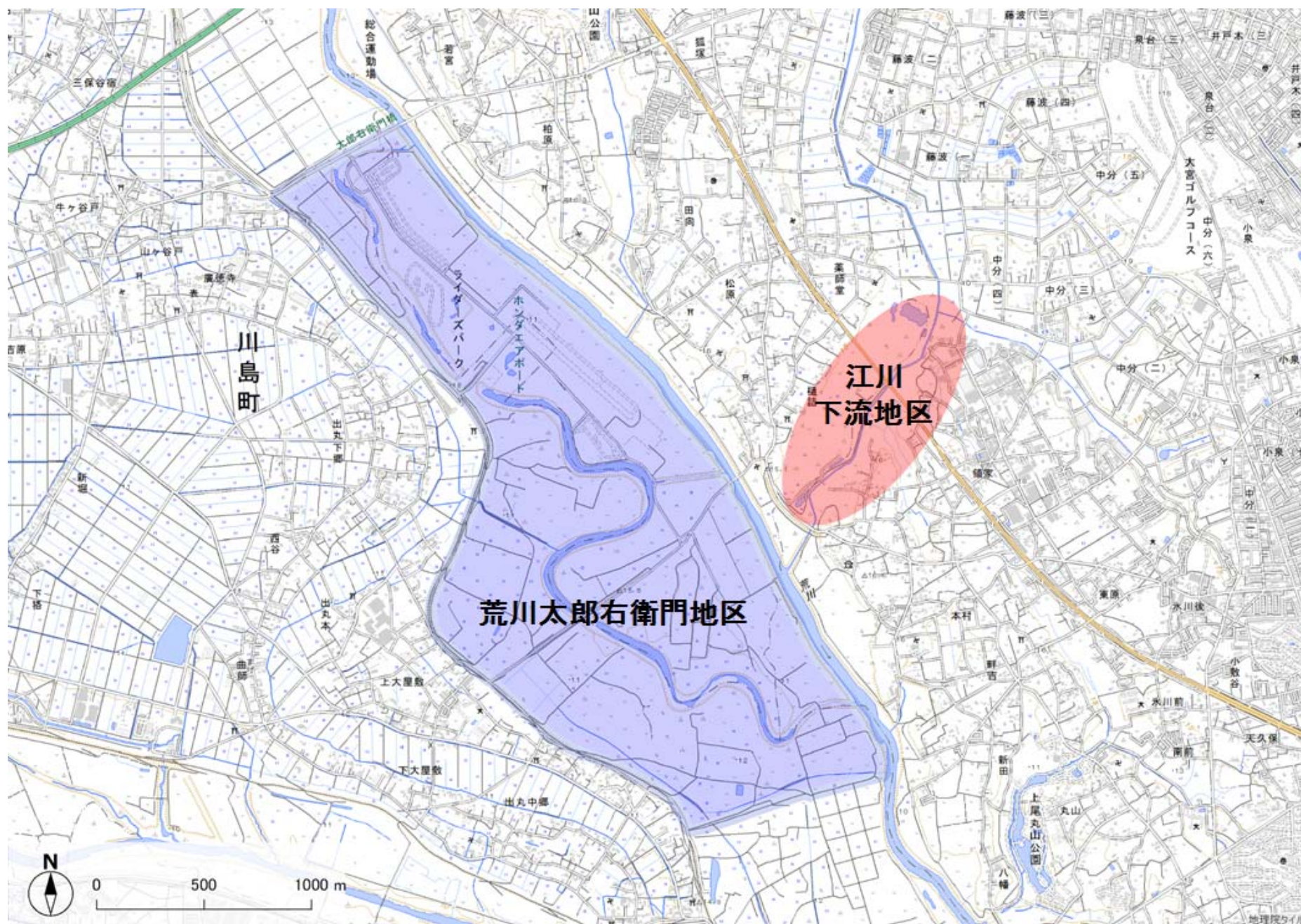


[15] ミズチドリ

【県：絶滅危惧ⅠA類】

湿性草原に生育する多年草

「サクラソウ群落再生適地」選定のための現地調査の対象地区



荒川太郎右衛門地区「サクラソウ群落再生候補地」の抽出

非公開

荒川太郎右衛門地区「サクラソウ群落再生候補地」の詳細位置（１）

非公開

荒川太郎右衛門地区「サクラソウ群落再生候補地」の詳細位置（２）

非公開

荒川太郎右衛門地区「サクラソウ群落再生候補地」の詳細位置（3）

非公開

「サクラソウ群落再生候補地」の比較一覧【当初】

非公開

「サクラソウ群落再生適地」選定のための生育環境条件の現地調査

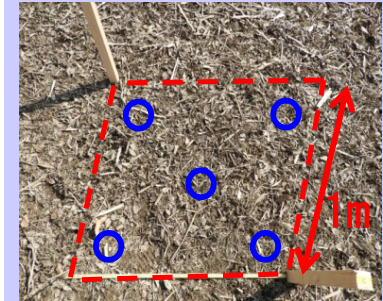
●生育環境条件調査として、その場所を代表する調査区(1m×1m)を設置し、植生調査、光環境調査、土壌水分調査を実施し、江川下流地区との比較と通じて、荒川太郎右衛門地区の各再生候補地の評価を行いました。

植生調査



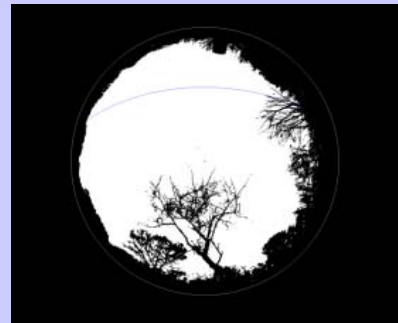
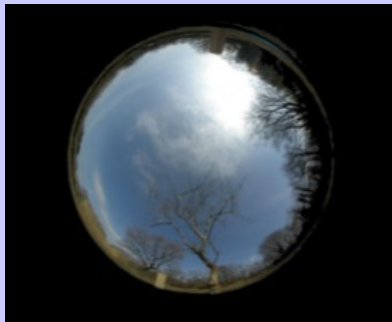
1m×1mの調査区内の全植物種を対象に、季節ごとの被度(地表を覆っている割合:%)と高さ(cm)を計測。

土壌水分調査



土壌水分計を用いて、季節ごとに1m×1mの調査区内の5点で土壌含水率(%)を計測。

光環境調査



1m×1mの調査区の中央で、季節ごとに全天写真撮影を行い、相対光合成有効光量子束密度(rPPFD)*を算出。

※ 相対光合成有効光量子束密度(rPPFD: relative Photosynthetic Photon Flux Density)は、植物の光合成に関わる光エネルギー量を表す指標で、全く被陰されないと仮定したときの光エネルギー量との相対比(0~1)で表されます。つまり、測定点にまったく光が届かない状態は「0」となり、周囲に遮蔽物がまったくなく到達する光エネルギー量をすべて受けられる状態が「1」と表されます。

計算にあたっては、魚眼レンズで撮影した全天写真画像をもとに、解析ソフトを使用し、太陽光を遮る遮蔽物の分布状況から、直達光だけでなく、散乱光も含めた値を求めることができます。

再生適地選定のための生育環境条件の現地調査の結果【1】

非公開

再生適地選定のための生育環境条件の現地調査の結果【2A】

非公開

非公開

非公開

再生適地選定のための生育環境条件の現地調査の結果【2D】

非公開

再生適地選定のための生育環境条件の現地調査の結果【3A】

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

再生適地選定のための現地調査完了後の本評価

非公開